

令和4年度 東京都立野津田高等学校 学校経営計画

校長 池 戸 成 記

1 スクール・ミッション

生徒一人一人が『未見の我』を発見し、未来をつかむ能力と態度を養うことを教育目標とし、基礎学力の定着と規範意識の醸成を図るとともに、自分の将来像を描きつつ、社会的自立ができるよう責任感や自主性を身に付けるといった教育活動を通じ、自らの可能性を切り拓いていく生徒を育成する。

2 スクール・ポリシー

(1)グラデュエーション・ポリシー ~ 本校ではこのような「資質・能力」を育てます

- 学び直しを含めた基礎的・基本的な学力
- 規範意識が高く、自分自身を自然と律することができる資質・能力
- 自分の将来像を描くことができ、社会的自立ができる資質・能力
- 個人を尊重した上で、適切にコミュニケーションを図れる資質・能力
- 責任感や自主性を身に付け、他者と協働しながら主体的に取り組むことができる資質・能力
- 自己肯定感・自己有用感を育みながら、他者の多様性を受け入れられる資質・能力
- 介護福祉士の資格取得を目指すことによって、社会福祉に貢献する資質・能力（福祉科）
- スポーツを深く理解し、生涯にわたってスポーツと関わっていく資質・能力（体育科）

(2)カリキュラム・ポリシー ~ 本校ではこのような教育を展開します

- 『未見の我』を発見し、未来をつかむための能力と態度を育成
 - ・基礎学力の定着と教養主義を中心としたカリキュラム
 - ・習得した基礎・基本的な知識を活用する場の創出
 - ・進路多様校としての3年間の計画的・系統的なキャリア教育
- 普通科・福祉科・体育科の個性化・特色化の推進
 - ・基礎科目の充実
 - ・文理融合の科目編成と進路希望に応じた自由選択科目の設置
 - ・介護福祉士資格取得（国家試験）のための介護福祉士養成課程（福祉科）
 - ・スポーツの知識と技術を進化・深化させる専門科目の設置（体育科）
- 基本的生活習慣の確立と心身の健康の向上
 - ・規範意識・社会的自立・コミュニケーション能力・主体性・協働性・多様性の向上を図ることを目指した生活指導、学習活動及び特別活動

(3)アドミッション・ポリシー ~ 本校はこのような生徒を求めています

- 全学科共通
 - ・社会性を身につけ、社会で活躍・貢献したいと思っている生徒
 - ・本校を志望する意志が強く、入学後の明確な目的意識をもつ生徒
 - ・学習に対して苦手意識があっても、これから前向きに取組み、頑張ろうと思っている生徒
 - ・粘り強く努力できる人になりたいと思っている生徒 あきらめない生徒
 - ・自分自身の心にきちんと向き合うことができ、また他人の心を受け入れることができる素直な生徒
 - ・学習、学校行事などあらゆる機会を通して自らを向上させる意欲をもつ生徒
 - ・今まで部活動に積極的に取り組み、これからも部活動で継続的に努力する気持ちをもった生徒
- 福祉科
 - ・対人援助に興味・関心をもち、将来、福祉等に関する職に就くことを強く希望する生徒
 - ・ボランティア、実習や教科活動に主体的、積極的に取り組むことのできる生徒
 - ・専門分野だけでなく、学習や学校行事などあらゆる機会を通して自らを向上させる意欲をもった生徒

○体育科

- ・生涯にわたってスポーツの実践者となることを目指し、実習や部活動に安全・積極的に取組める、本校入学に明確な目的意識をもつ生徒
- ・本校が専攻種目として指定する種目を選択し、入学後3年間継続して専攻できる生徒
- ・体育、スポーツの分野で優れた実績をもち、入学後も継続的に努力し、その経験を将来の進路や人生に生かすことのできる生徒
- ・専門分野だけでなく、学習、学校行事などあらゆる機会を通して自らを向上させる意欲をもった生徒

2 中期的目標と方策

(1)基礎学力の定着と伸長

- ①基礎・基本を重視した学習内容や指導方法を工夫し、個々に応じたきめ細かい教育の充実を図る。
- ②授業規律を徹底することで落ち着いた学習環境を整備し、能動的に学ぶ能力や態度の育成を図る。
- ③上級学校への進学希望者のために、発展的な講習の充実を図る。
- ④教員同士や他校との相互授業参観を積極的に行い、授業改善と授業力の向上を図る。
- ⑤ICT機器やオンラインを積極活用した学習活動を推進し、デジタル社会で活躍する人材の育成を図る。

(2)進路希望の実現

- ①3年間を通した系統的・計画的なキャリア教育を基に、自己の将来像を描かせ、そこに向かって能動的に活動する人材の育成を図る。
- ②進路指導部及び学年が協働し、生徒個々の現状を的確に把握し、個に応じた進路指導を推進する。
- ③地域や社会の関連機関と連携したキャリア教育を推進し、望ましい勤労観、職業観の体得を図る
- ④あらゆる教育活動を通して勤勉で粘り強い人材の育成を図り、たくましい社会人を育成する。

(3)普通科・福祉科・体育科の個性化・特色化の推進

- ①各学科の特色や魅力を整理、再構築し、学習意欲とその効果を高める。
- ②各学科の教育効果を積極的に校内外に発信し、募集対策に資する。
- ③各学科の目標に応じた資格や、各検定・資格試験受験を奨励し、自身のキャリア構築に活かす。

(4)基本的生活習慣の確立と心身の健康の向上

- ①人権尊重を基本とした規範意識の育成と醸成を図り、社会的自立を促す教育を推進する。
- ②時間や挨拶、整理整頓などの基本的な生活習慣を定着させる。
- ③自ら学び考え、自らを成長させることのできる能力を育成する。
- ④生徒が自ら健康な生活習慣を送ることができるよう教科横断的な視点を踏まえた指導に取り組む。
- ⑤教員と生徒が互いに尊重し合い、理解と納得、責任に基づいた生活指導を行う。
- ⑥いじめのない校風をつくり、安全で安心な学習環境を保障し、健全な心を育む。
- ⑦特別支援コーディネーターを中心として、特別支援教育を学校全体で推進する。

3 今年度の取組目標とその達成に向けた具体的方策

(1)学習指導

- ①一人一台端末、ICT及びBYOD等を活用した学習方法の研究と実践に努め、デジタル技術を活用した教育を推進する。
- ②習熟度別授業の充実や少人数制授業の推進・活用により、「基礎・基本の徹底」を図るきめ細やかな指導を実践する。また、個に応じた指導の推進を図るため、補講や講習を充実させる。
- ③生徒の実態に即した授業形態、指導方法及び授業展開等の工夫に絶えず取組み、生徒の興味・関心を引き出すとともに、「わかる」授業を展開し、「できた実感」を体験させる。
- ④各教科において、生徒が見通しを持って粘り強く取組み、自らの学習活動を振り返って次につなげることができるような学びの道筋を提示し、主体的な学びの過程を実現させる。
- ⑤教科指導力向上のために、「教員相互の授業参観」を推奨し、研究と修養に努める。また、他校の模範授業の参観など、積極的に校外での研修に参加し、研鑽に努める。

福①地域や福祉施設と連携した実習を基盤に、自尊感情を育成するとともに、命に対する畏敬の念と人権尊重の心を養いながら、福祉に関するスペシャリストの養成に向けた指導を徹底する。

体①スポーツが持つ、品位、結束、規律、尊重などの態度育成を第一義とし、自身や他者との関わり方を学ぶことによって、共生社会の実現に必要とされる人材の育成に努める。

体②質及び量ともに豊かな実技を中心とした授業を基盤に、技能向上のために自ら考え行動する態度を育成する。学校設定科目「専攻スポーツ」を充実させ、専攻種目における競技力の向上を図る。

(2)進路指導

①進路指導部が主体となり各学年との連携を図る。また、3年間を見据えた系統的・体系的な進路指導計画を作成し、キャリア教育を全教職員で組織的に実施する。

②生徒個々の適性や希望を把握し、その実態に応じて適切な進路情報を提供するとともに、ハローワーク等の関係機関と連携を密にし、適切な個別相談等を実施する。

③進路ガイダンス、職業講話、企業見学、上級学校見学やインターンシップを通して、生徒が望ましい勤労観や職業観を身に付け、主体的に進路を選択決定していける能力、態度を育成する。

④「進路だより」等を使い、定期的に進路に関する情報に触れさせることによって、進路に関する意欲や意識の喚起を図る。

(3)生活指導

①生活指導部や学年に偏重することなく、生徒との信頼関係を基盤とした全校体制の指導を行う。特に中途退学者の減少のために、きめ細やかで粘り強い生活指導を継続する。

②生徒相互や生徒と教員間の「あいさつ」を励行するとともに、身だしなみを整える指導を徹底し、基本的生活習慣を確立する。

③地域の関係諸機関と連携した交通安全、薬物乱用防止、SNSやインターネットの適正使用等のセーフティ教室や健全育成講話を実施する。

④「時間を守る」意識の育成を図り、遅刻指導に取り組む。また、全教員で「チャイムで始まり」「チャイムで終わる」授業を実践すると同時に、机上・机下の整理整頓を徹底する。

⑤「いじめのない学校」を実現する。いじめ対策として、いじめ対策委員会の定期的開催やスクールカウンセラーを活用した早期発見に努め、家庭との協力体制を構築し、生徒の悩みに対応する。

⑥地域からの声に迅速かつ丁寧に対応し、特に交通ルールの遵守と、自転車通学のマナーを向上させるための指導を徹底する。

(4)特別活動・部活動

①専攻スポーツでは、外部指導員を積極的に活用するなど質的充実を図るとともに、各専攻が共通目線で生徒指導を行うことにより、競技力の向上と学校への帰属意識の向上を図る。

②学科を越えた部活動の活性化に取り組み、部活動を通して学校への帰属意識や連帯感をもたせるとともに、生徒の健全育成を積極的に推進する。

③文化系活動の表現の場を積極的に設け、生徒の表現力や意欲の向上に資する。

④特別活動の意義を十分に理解し、野津田祭をはじめとする行事の運営を生徒が主体となっていけるよう支え、学校の活性化を図る。

⑤委員会活動の充実を図ることによって、より良い学校生活を送るために生徒が主体となって活動していく機会を増やし、健全な社会性の育成に努める。

⑥生徒の人権を尊重した指導や自発的な活動を保障し、体罰・暴言のない指導を徹底する。

(5)健康づくり

①学校保健計画に基づき、生徒の健康の保持増進を図り、安全確保を徹底する。特に感染症対策には生徒の自主的な活動を取り入れ、生徒が当事者意識を持ち、自ら課題を解決していく態度を養う。

②環境美化を重視し、美化委員会を中心とした生徒の自発的な清掃活動を推進する。学習環境の整備や保全に心がけ、美化活動を通して生徒の豊かな心を涵養する。

③生命尊重の視点に立ち、「SOSの出し方」や、不登校や自殺等対策に資する教育の推進として、積極的なスクールカウンセラーの活用を行い、教育相談体制の活性化を図る。教育相談委員会を定例的に実施し内容の充実を図る。

- ④教育相談委員会を中心に、「都立学校発達障害教育推進エリアネットワーク」を積極的に活用し、特別支援教育や日本語支援を必要とする生徒へのきめ細かな対応に心がけ、学校全体で特別支援教育の推進に取り組む。
- ⑤体育の授業において運動量を確保するとともに、スポーツテストの結果をフィードバックし、エビデンスベースの最適化された学びを提供することにより、基礎体力の向上を図る。また、部活動を通してバランスのよい体力づくりを取り入れる。

(6)募集・広報活動

- ①ホームページの充実を図り、即時性のある発信力を高める。また、生徒が主役となる発信方法を構築し、地域の方々や中学生、その保護者に本校の日常の教育活動を効果的に発信する。
- ②学校見学会・学校説明会・体験入学等を積極的に開催して、本校の特色及び各学科の特徴を中学生とその保護者に丁寧に説明し、アドミッション・ポリシーに基づいた生徒の募集を目指す。
- ③出前授業や模擬授業等、校外の募集活動に積極的に参加するとともに、部活動体験の回数を増加することにより、特に近隣中学校との連携・交流をより一層推進していく。
- ④生徒による母校訪問や、全教職員体制による中学校訪問、体育科の専攻スポーツ体験入部（説明等）を積極的に実施する。

(7)学校経営・組織体制

- ①スクール・ミッション及びスクール・ポリシーの実現に向けて、企画調整会議と教科主任会を経営の基盤に据え、経営課題の解決と経営方針の徹底を図り組織的な対応力を高める。
- ②経営参画ガイドラインに基づき、経営企画室における業務執行の適正化を図り、透明性を担保した執務の励行を行う。
- ③内部評価及び外部評価の結果に照らして、改革や改善を常に意識することで、創意工夫のある教育環境を整える。
- ④PTAや同窓会と緊密に連携し、共催事業を実施することにより教育活動を充実させる。
- ⑤保有個人情報の管理を徹底することにより個人情報紛失事故を0とする。そのために、クリーンデスクに取り組み、机の施錠と使用する施設等の施錠を徹底する。
- ⑥会議の効率化、コミュニケーションの充実、新規導入されるシステムの効果的活用により、業務の改善を図り、教職員のライフワークバランスを図る。

4 今年度の重点目標と方策

(1)基礎学力の定着と進路実現の推進

- ①CYOD や BYOD の活用など創意工夫した授業を展開することによって、生徒が「わかる」授業を実践し、学校への定着や進路実現を図る。
- ②上級学校への進学に向け、中位層を引き上げ、上位層を伸ばす。
- ③進路指導部と各学年の連携により、3年間を見据えたキャリア教育を組織的に実施する。

【数値目標】

項目	目標数値（ ）内は前年度以前数値
中途退学率	2.0% （3年度 3.1% 2年度 2.5% 元年度 3.6% 30年度 5.1%）
進路決定率	普 95%以上 （3年度 84%） 福 95%以上 （同 94%） 体 95%以上 （同 90%） 大学進学率 25% （3年度 25% 2年度 26% 元年度 16% 31年度 21%）
調査 肯定的意見	高校での学習の仕方が理解できる 各学年 85%以上 （3年度 1年生 82%、2年生 84%、3年生 83%） 授業や学習に積極的に取り組んでいる 各学科 85%以上 （3年度 普通科 82% 福祉科 78% 体育科 83%） 授業での説明や教え方は分かりやすいように工夫されている 各学科 90%以上 （3年度 普通科 86% 福祉科 79% 体育科 90%）
相互授業参観	各教員 10回以上

(2)普通科・福祉科・体育科の個性化・特色化の推進

- ①普通科は、授業内容の工夫や習熟度別授業、補習・補講により、基礎基本の徹底を図る。また、資格や検定受検を奨励し、自己の可能性や能力を伸ばそうとするマインドを育成する。
- ②福祉科は、介護福祉士国家試験の合格を目指し、その過程において、自他共愛の精神や多様性の時代にふさわしい社会に貢献できるスペシャリストを育成する。
- ③体育科は、授業と専攻スポーツの充実を図り、専攻スポーツの競技力を向上させる。また、資格の取得により、スポーツのスペシャリストを育成する。
- ④上記各学科の特色と魅力を校内外に積極的に発信し、応募倍率の向上を図る。

【数値目標】

項目	目標数値（前年度以前数値）
生徒の入学満足度	全学科 85%以上（3年度一年生 普 84% 福 66% 体 79%）
介護福祉士国試合格率	100%（3年度 94% 2年度 84% 元年度 88%）
応募倍率	普 推薦 1.50 倍（3年度 1.30 倍 2年度 1.65 倍 元年度 1.13 倍） 一次 1.10 倍（3年度 0.88 倍 2年度 0.79 倍 元年度 1.05 倍） 福 推薦 1.50 倍（3年度 1.20 倍 2年度 2.90 倍 元年度 0.90 倍） 一次 1.10 倍（3年度 0.48 倍 2年度 0.96 倍 元年度 0.27 倍） 体 推薦 1.50 倍（3年度 1.25 倍 2年度 2.00 倍 元年度 2.25 倍） 前期 1.10 倍（3年度 0.38 倍 2年度 1.08 倍 元年度 1.17 倍）
各種検定受検者数	のべ 40 名以上
H P 更新回数	200 回以上（3年度 277 回 2年度 248 回 元年度 212 回）
部活動加入率	60%以上（3年度 59% 2年度 58% 元年度 51%）
部活動実績	都大会入賞、関東大会・全国大会・全国高文祭等への出場

(3)基本的生活習慣の確立

- ①時間の厳守、挨拶、身だしなみ、身の回りの整理を中心とし、特に、遅刻に対する対策、指導を充実させ、生徒の基本的生活習慣の確立を目指す。
- ②通学路や交通機関等における公共のマナーを育成する。特に自転車のマナー向上に取り組む。
- ③人権尊重の精神を育成し、共同生活体の中で規範意識を高め、いじめや事故のない安心・安全な学校を目指す。

【数値目標】

項目	目標数値（前年度以前数値）
いじめ対応件数	0 件（3年度 0 件 2年度 1 件）
体罰、暴言等	0 件（3年度 0 件 2年度 0 件）
皆勤生徒数	各学年 20 名以上（3年度 1 学年 25 名 2 学年 27 名 3 年生 11 名）
年間遅刻延べ回数	4000 回（3年度 4288 回 2年度 6315 回 元年度 6068 回）
調査 肯定的意見	生徒は、クラスや部活動などで、良い交友関係をもっている 各学科 90%以上（3年度 普通科 82% 福祉科 78% 体育科 92%）

(4)その他

毎月の時間外勤務の見える化に取り組み、教員のライフワークバランスを図る。

【数値目標】

項目	目標数値（前年度以前数値）
時間外勤務時間	平均 25 時間以内（3年度 30 時間）
調査 肯定的意見	本校は、教職員のライフワークバランスに配慮した取組みが行われている 80%以上（3年度 68%）